

第20回 全国街路事業コンクール表彰事業一覧(内定)

賞の種類	事業名	表彰対象者 (応募者名)	都市名	事業主体
国土交通大臣賞	大阪都市計画都市高速鉄道 JR阪和線連続立体交差事業	大阪市建設局	大阪市	大阪市
全国街路事業 促進協議会 会長賞	川越都市計画道路事業3・4・3号 中央通り線ほか6路線	埼玉県県土整備部道路街路課 川越市建設部街路課	川越市	埼玉県 埼玉県川越市
	都市計画道路富山ライトレール線整備事業(特殊街路)	富山県富山市	富山市	富山県富山市
優 秀 賞	県中都市計画道路郡山駅庚垣原線整備事業	福島県土木部	郡山市	福島県
	近鉄名古屋線・JR関西本線連続立体交差事業	名古屋市緑政土木局 道路部橋梁課	名古屋市	名古屋市
特 別 賞	弘前都市計画道路3・3・3号下白銀町福村線道路改築事業	青森県県土整備部都市計画課	弘前市	青森県
	高島都市計画道路3・4・2号中央通り線 外1線 改築事業	山形県	東置賜郡 高島町	山形県
	八王子都市計画道路3・4・57号並木町横川線街路事業	八王子市道路事業部	八王子市	東京都八王子市
	都市計画道路山手幹線(神崎・戸ノ内)	兵庫県阪神南県民局	尼崎市	兵庫県
	日南都市計画道路3・4・15山瀬東郷線街路整備事業	日南市建設課	日南市	宮崎県日南市
	三宮駅南交通広場および三宮駅前東線 (三宮駅前第1地区都市再生事業)	神戸市都市計画総局	神戸市	神戸市

特 別 賞

表彰事業名	弘前都市計画道路3・3・3号下白銀町福村線道路改築事業		
表彰対象者	青森県県土整備部都市計画課		
都市名	弘前市	事業主体	青森県
事業概要	<p>本事業は、駅東西地域の連絡強化および都市内交通の円滑化を図るとともに、JRアンダー一部の狭幅員・急勾配の解消を図り、地域住民の安全・安心を確保するものとして、総事業費118億円、総延長765mの4車線道路の整備を行ったものである。</p> <p>構造上の特徴としては、U型・逆T型擁壁(390.5m)とトンネル(66.5m)等の構造物があり、歩道部(両側)には、冬期の歩行者の安全対策のため空気熱源ヒートポンプ方式(使用電力量が少なく、CO2の削減が図れる)による融雪装置を整備した。</p> <p>また、施工の特徴としては、トンネル(JR奥羽本線交差部)にフロンテジャッキング工法を採用して、供用中の鉄道との安全性を確保しながら施工を行った。</p> <p>○事業延長:765m ○幅員:22m(4車線) ○総事業費:約118億円 ○事業期間:平成2年11月～平成19年3月</p>		
表彰理由	<p>本事業の完成により、通勤・通学や地域経済を担う重要路線が開通し、弘前駅東西地域の分断解消や都市内交通の円滑化と広域ネットワークの形成に大きく寄与したことが高く評価された。</p> <p>また、旧道は、狭幅員かつ急勾配であり、歩道がないため、安全上極めて危険な状態であったが、広幅員の歩道とヒートポンプによる融雪装置の設置により、安全性と利便性の向上に大きく寄与したことが評価された。</p>		

事業位置図



全体図(平面図・側面図・横断面図)



完 成 前



完 成 後



完 成 全 景



整備効果 ①

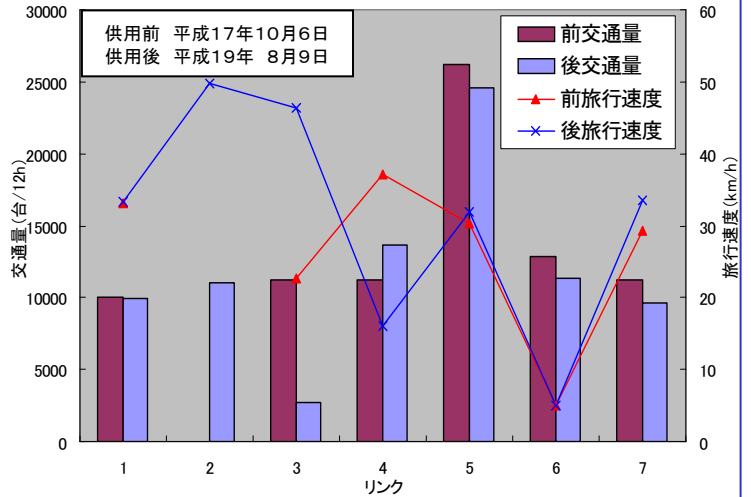
○事業概要

事業名: 弘前都市計画道路3・3・3号下白銀町福村線道路改築事業
 路線名: 3・3・3号下白銀町福村線
 事業箇所: 青森県弘前市大字和徳町～松ヶ枝五丁目地内
 事業延長: 765m 幅員: 22m(4車線)
 総事業費: 約118億円 事業期間: H2～H18年度

○交通量調査結果



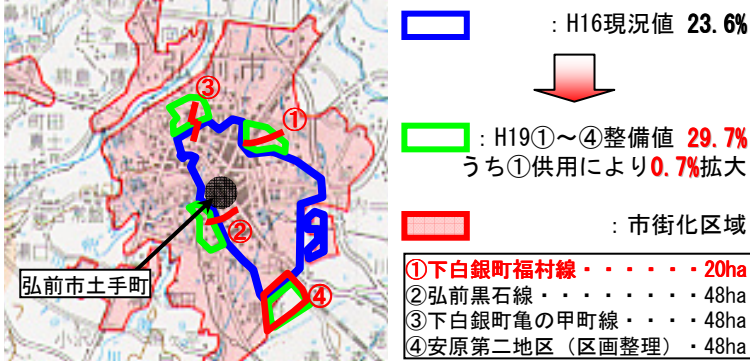
交通量と旅行速度の変化



リンク別交通量(台/12h)							
リンク	1	2	3	4	5	6	7
整備前	10,046	11,229	11,229	26,142	12,892	11,229	
整備後	9,957	10,991	2,691	13,682	24,585	11,332	9,646

○市中心部へのアクセス向上

市中心部(土手町)への10分到達エリアの拡大



※算定式=市中心部(土手町)への10分到達エリア面積/市街化区域面積

○人と環境に優しいまちづくり

- ・ヒートポンプ式融雪装置(歩道両側)
化石燃料を使用しない
消費電力が少ない
- ⇒ **CO₂を削減し歩行者の安全・安心確保**
- ・排水性舗装(車道部)の設置
視認性向上
ハイドロ現象の緩和
騒音の低減
- ⇒ **車両の安全性向上と周辺環境へ配慮**

「整備効果」

- 和徳交差点の渋滞が完全に解消
 - ・リンク3 11,229台→2,691台
 - ・最大渋滞長 650m→50m
 - ・最大通過時間 10分→1分
- 道路勾配を緩和
 - ・最急勾配 7%→4%
- 市中心部へのアクセス向上
 - ・23.6%(H16)→29.7%(H19)



事業前



事業後

【生活に密着した事業】

○歴史的な道路(「ゆみちゃん道路」と「みのりのトンネル」命名の由来)

昭和42年、弘前市立和徳小学校4年生の松山由美さん(現姓中村さん)は、「交通事故から私たちを守ってくれる安全な通学路を作ってください」と、弘前市和徳ガードの窮状を訴えて、当時の竹内青森県知事に手紙を出したことがきっかけとなり、旧国鉄奥羽線ガード下に歩行者専用地下道の建設計画が立てられ、昭和44年度に完成した。

完成したこの地下道は「ゆみちゃん道路」と名付けられ、約30年にわたり和徳小学校の児童たちを激しい交通の往来から守り続けてきた。その後、平成2年度から弘前市中心部と城東地区を結ぶ新たな都市計画道路として本路線が整備され、同ルートに整備された新地下道(こ道橋)についても、引き続き「みのりのトンネル」として命名された。

【開通式H18.11.22】



○和徳歩道橋

主要地方道弘前岳鱒ヶ沢線と市道土手町俵元線との交差点に設置されている和徳歩道橋は、昭和45年度に青森県と弘前市により設置された。当該施設は、前年度に完成した「ゆみちゃん道路」と連絡して37年間、和徳小学校の児童たちの通学路として安全を守り続けてきたが、本整備による利用者減と老朽化により、撤去することとなったもので、お別れ会として、和徳小学校児童らが歩道橋の渡り納めを行った。

【歩道橋渡り納めH19.10.24】



【みのりのトンネル】



整備効果 ③

【他事業との連携】

沿線の西側地区は昭和40年代からの土地区画整理事業により、既成市街地が形成されている。平成10年度から8年をかけて実施した弘前駅周辺整備事業により、橋上駅舎を備えた東西自由通路などが開通し、交通結節点としての広域的機能が拡充され、さらに駅北側地区においても土地区画整理事業が着手され、駅周辺は着実に市街化が進んでいる。また、沿線の東側地区でも土地区画整理事業により急速に宅地化が進み、大型店舗、卸売市場等の商業施設が形成され、発生交通量が増加している。

当該路線の完成は、東西に分断されていた市街地の連絡性を強化し、東西地区の良好な市街地形成を推進してきた各土地区画整理事業や駅周辺整備事業等との一体的な整備により、良好な都市内環境の創出を支援している。



【弘前駅自由通路】

【城東第4・5地区土地区画整理】



東西市街地の連絡強化



【駅前地区区画整理事業】



【弘前駅城東口】

